



企業連携インタビュー

東京専門職大学（仮称）への期待

第4回 株式会社アイスタイル 取締役 山田 メユミ氏

2018/7/18

-まず、貴社の事業についてお聞かせください。

美容に関心の高い人たちが集まるコスメ・美容の総合サイト「@cosme[A1]」を運営しております。そのサイト上で、企業様に新製品のプロモーションをしていただいたり、マーケティングリサーチのサポートをしたりもしています。eコマースもおこなっていますが、それに加え、@cosme store[A2]という名前で化粧品のリアル店舗も国内で25店舗展開しています。

様々な形で生活者とブランドとの新しいより良い出会いを創出し、その結果として生活者の満足度がより高まっていく。このような社会を目指していこう、生活者中心の市場創造をしよう、という会社で、今年20期になりました。現在ではアジアを中心に、世界各国でサービスを拡げております。台湾のほか、最近では香港に@cosme store[A3]を

オープンし、今後はタイにも出店する計画です。日本の製品は非常に品質が高く、安心安全なブランドも多いことから、アジアを中心にもっとグローバルに知られるべき、と考えています。アジアでは韓国の化粧品の認知度が高いため、我々も微力ながら日本の良い商品を世界に発信していく事に関わっていただければと思っています。

そのほか、美容業界で就業したい方と企業をマッチングする「アットコスメキャリア」という美容求人サイトなど、美容業界に特化した事業を展開しております。



-専門職大学についてどのような期待をお持ちになりましたか？

これから国際化がより進み、人材交流も今以上に活発になっていく中で、スペシャリストとして社会で活躍するためには、大学卒業資格とは違う専門学校資格という日本独特の制度は不都合が生じることもあるでしょうから、それが解消される選択肢が生まれるのは良



いことだと思えます。今世の中のサービスが、単一サービスからより複合的なサービスに移行しています。そのため、様々な事業者が連携していかないと新しい価値が生めない環境になってきています。より総合力の高い人材が求められていく中で、専門分野の知識だけでなく、関連する領域や、経営を含めて学んだ方々を輩出されることは、これから日本の競争力をあげていく上でも有意義なことだと思えます。

スペシャリティの高い職種でやっていらっしゃる方には、専門家だからこそ発想できるビジネスのアイデアが間違いなくあると思えますが、ご自身で事業を立ち上げ、会社として規模を大きくしようとするときなどに、専門領域に特化した知識や経験だけでは、対応が難しい場面が出てくるように思います。もちろん、それぞれの専門分野をもったスペシャリストチームを組んで経営していけば良いとは思いますが、ご自身も専門職大学で起業等についても学ぶことで、うまくいく可能性はより高まるのではないのでしょうか。様々な素養をお持ちの方々が世の中に輩出されていくと期待しています。

-本学のカリキュラムの特徴として、5つの柱、事業化力などがありますが、これらについて、どのような興味や期待をお持ちになりましたか。

「専門性の深化」で気になったのは、ロボット・ICTです。ロボット ICT あるいは地域ツーリズムなどは、今までは福祉との連携があまりされてこなかったと思えます。新しいビジネスが生まれていくきっかけをお作りになれるのではないかと感じます。

福祉介護の分野でも、間違いなくこれから ICT 活用で解決できる課題は多くなっていくでしょう。ICT を活用しなければ、今後の人材不足を乗り越えることはできないと思えますが、IT リテラシーは現場で忙しく働いていらっしゃる専門職の方々が後学で身に着ける時間を作るのは簡単ではないと思えます。これからの学生の方々は、ベーシックスキルとして IT スキルを身に着けておくのは、ご自身のキャリアにとっても非常に有意義だと思えます。

ただ、ビジネスにおけるコミュニケーションツール自体は時代と共に変わっていくと思えます。例えば、現在は事業説明などの際には、パソコンでパワーポイントなどのプレゼンテーションツールを使って資料を作るのが主流ですが、今後はもしかすると動画の活用が進んでいくかもしれません。実際、プロモーションビデオを作り活用するといったことが若い社員はとても上手です。そういった様々な自己表現について理解を深めていただくというアプローチもあります。その時に求められる IT リテラシーやツールを使いこなせることが大切だと思えます。

パソコンやスマートフォンだけでなく、今は IoT によってどんどん生活の身近なところにインターネットが繋がってきています。例えば見守りサービスで色々な会社が参入しているように、家電メーカーはもちろん、いろいろな業種の会社が、高齢者のニーズや、現場の方の意見を欲していると思えます。

今総務省が ICT 民生委員を作る、と動いています。高齢者を中心に、普段 IT に触れていない方々が IT について知っているか、効率よく使いこなせるかで、生活の質・QOL の差、



もしかすると経済的格差を生じさせると感じます。このような事柄をサポートする方が求められていくでしょう。その一つの解が、「ICT 民生委員」ですけれども、これから地域包括ケアシステムを推進していくなかで、身近なサポーターは必要となっていくと思います。

ICT で解決できることは年々広がっていますので、その知識をお持ちの方とそうでない方とでは、仕事の効率、時間の使い方に大きく差が出てくると思います。学生の中から IT スキルを身につけ、取り入れていくことが必要です。

-御社の事業と高齢者、或いは福祉の事業とはどのような関連する分野があるでしょうか。

我々の事業はインターネットの成長と共に成長してきましたので、利用者のコアは 20～30 代から 40 代ですが、これからはシニアとお呼びするのも失礼なくらいアクティブに活動されている方々が増えていきます。そういった方たちに美容を通じて人生の豊かさやゆとりにつながる美容情報をお届けしたり、新しいサービスを提供したり・・・といったことは今後も積極的に検討していきたいと考えています。

まずは、アンチエイジングに特化した美容サイト「A-Beauty」を、2015 年から始めています。例えば更年期障害の時期は、いろいろな体調の変化が起こります。そうした年齢に伴う変化を化粧品や美容の力でどのように対応できるか、といった情報提供に特化したサイトです。アクティブシニアの方々にも、美容を通じて生活をより豊かにする、そのお手伝いをしていけないかといことを考えていきたいと思っています。



【出典】(株)アイスタイル「40代からの美容と健康に関する「知りたい」を叶えるメディア『A-Beauty』12月3日グランドオープン！」2015年12月03日



高齢化が進み、人生 100 年時代となると、高齢者という概念が変わりつつあると思います。非常に元気でアクティブに過ごしている方が増えてきています。その一助を担えるのが美容ではないかと思います。特に女性にとっては、精神的に落ち込んでいるようなときに化粧をし、身支度を整えるだけでも気分を切り替えられたり、豊かな気持ちになることができる。化粧品は女性にとって非常に身近で、切っても切り離せない商材で、年齢は関係ないと思います。人生 100 年時代をアクティブに過ごしたいと考えている方々に対し、各企業もマーケティングをし、年齢が高い方に向けてのブランドを積極的に発売されています。

お年を召した方に対する社会の受け止めかたも変わってきています。以前なら「あんな派手な格好をして」と言われた場合でも、今はファッションを楽しんでいる、と捉えてもらえる。そのような変化の中で、美容がもっと、認知症、あるいはリハビリテーションに関わることがあっていいと思います。そういう分野に寄与できるのではないかと期待しています。

貴学には音楽療法という科目もあるようですね。西洋薬や外科手術だけでなく、生活の様々なところで、QOL を向上させていくことは外せなくなってくると思います。専門分野に限らず、様々な分野の情報を頭の中に紐づけし、一人一人に合わせたサービスを提供することができる、総合力の高い人材がこれから求められていくと思います。その意味で、総合力の高い人材を輩出されていくことは素晴らしいと思います。

-本学は医療福祉を専門としながら経営についても科目を充実させていますが、このような教育は、産業界から求められていると感じられますか。

専門家を育成すると同時に経営学に力を入れていращるのは非常にユニークな特色だと思います。企業への就職などいろいろな活躍の場がある中で、専門性に特化した学問しかしてこなかった方と、幅広い視野をお持ちでいろいろな可能性を自分として感じながら社会に出る方とでは、大分最初のスタートが違うように思いますし、その方ご自身の人生の可能性も広げると思います。企業にとっても学生さんにとってもプラスになると思います。

今まで専門性をお持ちの方が新しい事業を考案して、ベンチャーなり新規事業を始めることは中々厳しかったと思いますが、これから企業もそのような人材を求めています。

-本学が更に強化すると良いと思う分野や要素、科目などがありましたら、アドバイスをお願い致します。

総合力に加え、必要となるのはコミュニケーション力です。総合力の中には、知識だけでなく人間力という幅広すぎるとは思いますが、コミュニケーション力の高さが重要だと思います。状況を聞き取れ、判断が出来る、傾聴が出来る能力、そしてその内容を伝えるためには、コミュニケーション力が必要です。

これから社会がより世界とつながっていくことを考えますと、就業の場は国内だけではなく、海外となるケースも当然出てきます。国際社会で活躍できる方たちが増えていくかが、今後の日本の課題となると思います。日本人が海外に出てだけでなく、海外から日本で



働く人が増えれば、コミュニケーションを取る上で語学教育は重要です。

当社も外国人社員の比率が高まっており、複数言語の方たちでミーティングをするケースが増えてきています。英語が中心ですが、中国語のケースもあるため、複数の通訳を入れながら会議を行うこともあります。お互いに共通言語でコミュニケーションできることは望ましいので、手段としての英語はできたほうが良いですね。

授業でご協力頂く美容だけでなく、グローバル化やIT化など、幅広い観点でお話しいただきました。インタビューにご協力いただきました山田様、大変ありがとうございました。